



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第73号

太素の水プロジェクト関連情報



International Commission on Irrigation & Drainage (ICID)

国際かんがい排水委員会(本部インド・ニューデリー) 選定
Heritage Irrigation Structures (HIS)

「かんがい施設遺産」に稲生川が登録されました!

世界96か国が加盟する国際かんがい排水委員会International Commission on Irrigation & Drainage (ICID)は、本年度、世界のかんがい排水施設の中で、建設から100年以上経過し、高い技術により建設された歴史的にも社会的にも価値あるかんがい排水施設を登録表彰する「かんがい施設遺産Heritage Irrigation Structures(HIS)」を創設し、2014年(平成26年)9月16日(火)大韓民国光州広域市で開催されたICID第65回国際執行理事会において、人工河川・稲生川が、世界5か国17施設(国内9施設)とともに栄えある第一回目の登録施設となりました。稲生川の登録申請は、県と稲生川土地改良区が中心となり書類を作成、農林水産省ICID国内委員会を通じてICIDへ提出しました。今回の登録は、不毛の原野とまでよばれた三本木原を一大水田地帯に発展させた稲生川開削の歴史的経緯や現在の官民一体となった保全と活用の活動などが評価されたものといわれています。



市内高清水を流れる稲生川



22nd ICID Congress and 65th IEC Meeting
大韓民国光州広域市で開催された同委員会の様子
※ICIDホームページwww.icid.orgより掲載

平成26年度登録 かんがい施設遺産 (国内9施設)

※他国の登録は中国4件、タイ1件、スリランカ2件、パキスタン1件の8施設。

- ①稲生川(いなおいがわ/青森県十和田市他) ②雄川堰(おがわぜき/群馬県甘楽町) ③深良用水(ふからようすい/静岡県裾野市他) ④七ヶ用水(しちかようすい/石川県白山市他) ⑤立梅用水(たちばいようすい/三重県多気町他) ⑥狭山池(さやまいけ/大阪府大阪狭山市) ⑦淡山疏水(たんざんそすい/兵庫県神戸市他) ⑧山田堰、堀川用水、水車群(やまだざき、ほりかわようすい、すいしやぐん/福岡県朝倉市) ⑨通潤用水(つうじゆんようすい/熊本県山都町)

Kyosokyodo(共創郷土)による市民共創の地域ブランドづくり



コシノ先生デザイン 武士道ラベル

コシノジュンコ先生デザイン「武士道」ラベル登場!

新渡戸記念館ボランティアKyosokyodo(共創郷土)は、地域の農業に貢献し、市の発展を支えてきた稲生川の恵みを地域の活性化に生かすため、十和田奥入瀬観光大使でもある鈴木弘之氏とコシノジュンコ先生に「武士道」ラベルをデザインいただき、地域ブランドとして、地元産品の付加価値を高める活動に取り組んでいます。本年度は、「日本酒編」として、趣旨に賛同する市内酒蔵・鳩正宗(株)、酒縁研究会(小川洋平会長)など酒事業者や農業関係者とネットワークを構築し、事業者が日本酒「武士道」の商標登録を取得。9月19日(金)には、各代表者を集めてのブランド発足会(日本酒編)において、コシノ先生にご提案いただいた3種類から「武士道」ラベルを決定しました。新渡戸稲造が生涯の志を立てたきっかけである三本木開拓の歴史、『稲造』の名の由来である稲生川の水の恵み、稲造の原点である十和田を、日本酒「武士道」に乗せて、世界に発信しようとして取り組んでいます。今年11月には完成予定ですので、どうぞご期待ください。

詳しくはKyosokyodo(共創郷土)事務局 TEL・FAX0176-23-4430



日本酒編ブランド発足会での「武士道」ラベル選定の様子



9月20日(土)には稲生塾特別編として塾生が鳩正宗工場を見学(詳細は次号にて)

稲生川の歴史を描いたバレエ作品～終ダンス&バレエ定期発表会第二部～

「太素の水プロジェクト」バレエ公演大好評!

2014年8月3日(日)



素晴らしい和太鼓演奏で舞台を盛り上げた時崎矢一路氏(中央)と、終バレエ主宰の上野智子氏(左端)

武士道精神をもって行われた開拓の歴史を表現

フィナーレにて

(公社)土木学会「選奨土木遺産」認定記念シンポジウム 未来に伝える三本木原開拓

■シンポジウム 【定員150名】 一般市民対象

日時: 10月25日(土) 14:00~

会場: 十和田富士屋グランドホール

内容: 認定書および銘板授与式・記念DVDお披露目の後

基調講演①「三本木原開拓と武士道精神」

講師: 静岡理科大学 志村史夫 教授

基調講演②「三本木原開拓に始まる北海道と東北開発」

講師: 日本大学工学部

知野泰明 准教授

■祝賀会 【定員80名】

日時: 10月25日(土) 18:00~

会場: 十和田富士屋グランドホール

会費: 3000円(飲食代として)

■稲生川現地見学会 【定員30名】

日時: 10月26日(日) 9:00~11:30 (8:30新渡戸記念館前集合)

見学場所: 新渡戸記念館~稲生川取水口~稲生川ふれあい公園

~一本木沢ピオトーブ

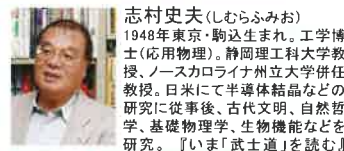
祝賀会・現地見学会ご参加の方は10月15日(木)までに下記へお申し込み下さい

未来に伝える三本木原開拓シンポジウムのお問い合わせは
十和田市立新渡戸記念館まで TEL/FAX 0176(23)4430 nitobemm@hi-net.ne.jp

シンポジウム講師プロフィール



選定選考委員会委員



(2009年 丸善出版)など理系文系両分野の著書多数

主催=未来に伝える三本木原開拓シンポジウム実行委員会

【共催】(公社)土木学会東北支部、「太素の水」保全と活用連合協議会、太素顕彰会、十和田市立新渡戸記念館、稲生川土地改良区、北里大学、八戸工業大学、青森県建設業協会、(一社)東北地域づくり協会、(財)青森県工業技術教育振興会
【後援】国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所、青森県上北地域県民局、十和田市、三沢市、六戸町、七戸町、東北町、おいらせ町、東奥日報社、デーリー東北新聞社、NHK青森放送局、青森放送、青森朝日放送、青森テレビ

EVENT

開催報告



【協力：新渡戸記念館ボランティア
Kyosokyodo (共創郷土)】

平成26年度 新渡戸塾こども講座

「ふるさとを愛する心」「武士道の心」「開拓の心」を、地域の絆の中で育むこども講座・寺子屋・稲生塾を市教育委員会と共催しています。市民ボランティアの協力を得て6月～8月に5つのプログラムを実施しました。

その1 武士道白熱教室 ～新渡戸稲造の武士道精神を学ぼう～ ー開講式ー

◆6月21日(土) 13:00～16:30 [場所：十和田市南公民館]

開講式で小山田久 十和田市長から活動へ激励の言葉をいただいた後、塾生たちは、『こども武士道』の著者・高橋和の助先生を講師に「武士道クイズ」で身近な道德に生きる武士道の知恵を学びました。「武士道白熱教室」では、震災からの復興などをテーマに意見を積極的に出し合い、高橋先生は討論の最後に「自分の意見をしっかり持ち、その意見に責任を持つことが大切です」とお話し下さいました。



武士道白熱教室

その2 開拓ゆかりの行灯づくり ～稲生川の歴史を感じよう～

◆7月5日(土) 9:00～12:00 [場所：十和田シティホテル駐車場]

工作屋台村 吉田紀美男村長を講師に行灯づくりのワークショップを行い、稲生川の歴史と開拓ゆかりの行灯祭りについて学んだ後、ペットボトルを使った小行灯と木枠で作った中行灯のほか、8月16日(土)の稲生川灯ろう流し用に、牛乳パックを活用した「稲生塾灯ろう」を作成しました。塾生たちは「灯ろうに願い事を書いて稲生川に流してみたい」と灯ろう流し会場に足を運び、11名の塾生が灯ろう流しに参加しました。
※灯ろう流しの記事は4面



行灯ワークショップ



稲生塾中行灯

その3 世界と友だちPART④ アルゼンチンの文化体験

◆8月9日(土) 9:00～12:00 [場所：十和田富士屋ホテル]

駐日アルゼンチン大使館文化部職員 柏倉恵美子氏を講師に、アルゼンチンの生活習慣、世界遺産、スポーツ、学校等について学びました。アルゼンチンの絵本や教科書等もお持ちいただき、塾生たちは実際に手に取って興味深く見ていました。独特の茶器と茶こし付ストロー「ボンビージャ」で飲むアルゼンチン伝統のマテ茶を実演いただき、本物の味に「苦いけどおいしい!」と歓声を上げていました。大使館より提供いただいたレシピをもとに、十和田富士屋ホテル西洋料理長 太田昇氏が製作したレブエルト・グラマッホ(フライドポテトのオムレット)カルボナーダ・グリオジャ(煮込み料理)ドゥーセ・デ・レーチェ(プリン)エンパナーダ(ミートパイ)はとても美味しいと好評で、料理を囲んでの楽しいひと時を過ごし、塾生たちからは「アルゼンチンに行ってみよう」との感想が多く寄せられました。



マテ茶体験

その4 とわだ時空調査隊 ～十鉄の鉄道路線の歴史をさぐる～

◆7月26日(土) 9:00～16:00 27日(日) 9:00～12:00 [場所：南公民館・旧十鉄七百駅]

十和田観光電鉄(株) 杉澤明彦課長から、2012年4月1日に廃線となった十鉄の鉄道の歴史について動画と写真を交えてうかがった後、壁新聞班、クイズ班、まんが班の3グループに分かれてボランティアの方々とともに、十鉄の懐かしい電車や変電所が保存されている旧七百駅を見学しました。白石鉄右エ門社長からまちの発展のために鉄道を作った先人の開拓精神が昔も今も十鉄の「宝」であることを教えていただき、翌27日(日)子どもたちは調査内容をグループごとにまとめ、発表しました。十鉄の電車などの保存活動に取り組む七百レールファンクラブの野田悟氏は塾生の発表を聞き、「若い皆さんにも、こうした活動を通して、公共交通の大切さに気づいてもらえれば」と話されました。



杉澤課長の説明で線路を見学



質問に答える白石社長



改ざつ体験



まとめ発表

企画を支えたボランティアの皆様、暑い中、子供たちの安全確認とサポートありがとうございました。

【とわだ時空調査隊の作品】

みなさんはこのクイズに
答えられるかな?

稲生塾の作品は、新渡戸記念館で展示した後、
市内に巡回展示します

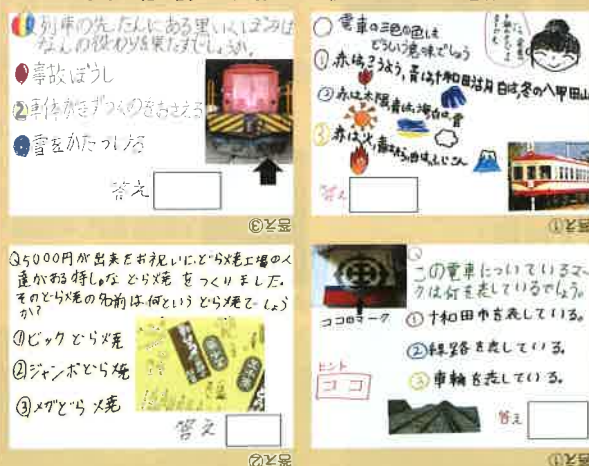
壁新聞「鉄道れきし新聞」



十鉄の歴史からキャラクターの性格紹介まで多彩な取材記事を掲載

クイズシート

クイズ班は調べた内容から14枚のクイズシートを作成



まんが作品

十鉄が運んでいたもの



まんが班は「鉄道むすめ」の十鉄キャラクター「清水なぎさちゃん」を案内役に歴史をイラストに交えてわかりやすく紹介



長崎買子くん作 清水なぎさ



鉄道電話の実演をする
白石社長(中央)と杉澤課長(右端)

十鉄の見学へご協力頂いた 十和田観光電鉄株式会社 白石鉄工 社長よりのメッセージ 寺子屋稲生塾の活動によせて

平成26年度の寺子屋稲生塾「とわだ時空調査隊」は、十鉄の鉄道のあった風景をめぐるコースで行われ、特に旧七百駅構内では、運行中では絶対に見られない「変電所内部」や、手動式のポイント交換機を動かしてお見せしたり、鉄道電話で実際の通話も体験してもらいました。また、私から塾生みなさんに、100年近く前に三沢から十和田まで鉄道を通したいと考え、実際にやり遂げた人について、その人々の「郷土を発展させたい」という心こそが地域の誇りだと、お話しさせていただきました。稲生塾の約束の中には、「あいさつをきちんとする」「小さな子の面倒を見る」「弱いものいじめをしない」など、大切なおしえが掲げられていますが、活動を拝見し、塾での体験が塾生みなさんの人間形成に大きな役割を果たしていると強く感じました。廃線となった鉄道跡地の探検を通して、目に見えるものが失われようとも、決して消え去ることのない、先人の郷土に対する思いや、開拓の心をみなさんに感じ取っていただけたなら幸いです。

その5 太素の森の開拓村 ～お話し会「南部むらさきとお三木茜・稲造が見た三本木原開拓」～

◆8月30日(土) 9:00～12:00 [場所: 太素塚]

新渡戸稲造の父・十次郎が三本木原開拓で取り組んだ産業開発に、地域でとれる良質の「紫根^{しこん}」や「茜」を活用した染物や薬の製造があったことや、稲造が語った、開拓地の名物菓子作りなどに取り組む家族の思い出をもとに、ボランティアが創作したオリジナルの歴史民話紙芝居『南部むらさきとお三木茜』『新渡戸稲造が見た三本木原開拓』(語り部: こま草の会 小野寺功氏)を昔のおやつドンキミ(実演: 丸井精米工場 丸井可朗氏)を食べながら聞きました。ハンカチに絞りを入れる茜染め体験や、紫染めの原料となる紫根を見学するとともに、紫根からつくる「紫なんこう」の実物を(社福)福祉の里からご提供いただき、子どもたちにプレゼントしました。昔ながらの南部せんべい焼き体験も大好評で、参加したおよそ40名の子どもたちに開拓の歴史を身近に感じてもらうことができました。



開拓村お話し会

染めを体験する塾生たち

トピックス

Kyosokyodo共創郷土が天然茜染め「お三木茜」ハンカチをつくりました



染めの指導をしてくれた小笠原みなみさん

稲生川に水が流れた日の翌日、安政6年(1859年)5月5日、新渡戸十次郎は自ら取り組む産業開発のひとつである、染物「お三木茜」の反物を、この年の3月に稲生町で初めて生まれた女の子に記念としてあげました。十次郎の地域の発展への思いが込められた茜染めを、十和田市出身の東北芸術工科大学4年生小笠原みなみさん(染色指導)、同じく十和田市出身の同大学4年生添野美生さん(茜染め紙芝居、およびキャラクター作画・博物館実習生)の協力を得て、Kyosokyodo(共創郷土)が天然十和田産茜草を使って再現しました。一枚一枚心をこめて絞りを入れハンカチに染め上げましたのでぜひご覧ください。



染め作業をするKyosokyodoメンバー

※お三木茜のお問い合わせは Kyosokyodo共創郷土 事務局 TEL・FAX0176-23-4430 info@kyosokyodo.jp



高村光太郎作「乙女の像」
像高/56.5cm 重量/約7kg
材質/ブロンズ(青銅製)
彫像制作年/昭和27年
ブロンズ像鑄造年/平成15年

彫刻家・小柳力氏が「乙女の像」彫塑像より鑄造のブロンズ像を新渡戸明顧問に寄贈

2014年6月21日(土) 秋田市において、同市在住の彫刻家・小柳力氏(新制作協会会員)制作50周年作品集出版記念祝賀会が行われ、作品集に巻頭言を執筆した館長と顧問が参加し、館長が祝辞を述べました。小柳氏は顧問と三本木小学校の同級生で、転校後も交友が続いています。三小時代の小柳氏は当時稲生町六丁目にあった新渡戸家によく遊びに来ては、顧問の祖母・新渡戸とよ様から一生懸命努力して名を残すようにと薫陶を受けていたとのこと。その後もそれを念頭に彫刻の道をめざし、現在では秋田県を代表する彫刻家となっています。とよ様からの一つ一つの言葉が忘れられないそうで、今回ご自身が所有していた高村光太郎作「乙女の像」(彫塑像より限定鑄造されたブロンズ像)を「とよ様に捧ぐ」として、個人的に顧問に寄贈されました。この像は高村規氏の監修を受け100体作成された内の「7番」と記載されています。小柳氏は「十和田湖の入り口に位置する十和田市立新渡戸記念館で、時に応じて展示してくれれば嬉しいです」と話していました。小柳氏からは以前顧問に同氏作木彫「けんけん」と「新渡戸七郎シリーズ」も頂戴しており、現在記念館内に展示しています。「乙女の像」についても展示の企画を考えたいと思います。

平成26年度 第一期 博物館実習

北里大学獣医学部

7月1日(火)
～7月11日(金)
動物資源科学科4年生
高野早紀さん



寺子屋稲生塾をはじめとするワークショップの補助と、館内展示資料解説シート作成、資料保存環境の分析整備に取り組みました。

7月22日(火)
～8月1日(金)
動物資源科学科4年生
粕谷美帆さん



とる仕事向の多岐にわたることで、経験を積むことができました。

東北芸術工科大学デザイン工学部

8月19日(火)～8月30日(土)
企画構想学科4年生 添野美生さん



ワークショップの補助と、Kyosokyodo共創郷土の歴史民話紙芝居作画、彩色、「お三木茜」ラベルキャラクターデザインなどに取り組みました。

稲生塾のお話し会で自分の作った紙芝居が読まれるのを見て、とても感動しました!



平成26年度 インターンシップ

八戸工業大学感性デザイン学部

9月9日(火)
～9月13日(土)
感性デザイン学科
3年生 佐藤帆里さん



各種記念館の印刷物等に使用するための新渡戸家三代ほか家族の肖像画(合計7枚)の作成に取り組みました。



佐藤さんの作品
新渡戸稲造 新渡戸雄 新渡戸十次郎

mini NEWS

資料の借用

・宮野雄治氏『明治41年9月10日付坂本忠蔵宛澁澤栄一書簡ならびに坂本忠蔵作「稲生川図」掛軸』1点(借用期間は3年)

太素塚清掃奉仕

- ・6月3日(日) 7月6日(日) 8月3日(日) 9月7日(日) さわやかクラブ様
- ・9月19日(金) 十和田市たばこ販売協同組合 女性部様
- ・9月20日(土) 十和田市老人クラブ大学通り老成会様
- ・毎月27日 Kyosokyodo(共創郷土)メンバーの皆様

ありがとうございました

関連情報

▶世界的なピアニスト・横山幸雄氏が来館

7月18日(金)新渡戸館長と親交のある上野学園大学教授・エリザベト音楽大学客員教授の横山幸雄氏が平成26年度市民大学(主催:十和田市教育委員会)第2講座「ショパンの人生」のため来十し、講演に先だち来館されました。



横山幸雄氏と

講演では、数々のショパンの名曲を、作曲された背景を紹介しながら演奏され、参加した市民からは「こんな贅沢な時間をすごせるなんて夢のようでした」と感激の声が聞かれました。

▶稲生川灯ろう流し開催

8月16日(土)稲生川灯ろう流しを太素顕彰会、十和田商工会議所、(一社)十和田市観光協会が共催し、多くの市民が見守る中19:00頃からおよそ250個の灯ろうが流されました。水土里ネット稲生川と十和田市消防団の協力で、灯ろうはゆるやかに流れ、本年は開拓の先人たちへ感謝の気持ちを込め稲生塾で子どもたちが作成した『稲生塾灯ろう』を流すとともに、道沿いに稲生塾出前講座で作成した行灯を展示し、幻想的な灯りが参加した市民の方々の目を楽しませました。



稲生塾灯ろう



稲生塾で作成した行灯の展示

▶当館ボランティア Kyosokyodo(共創郷土)新渡戸富恵会長が新聞雑誌などに執筆

デーリー東北リレー連載「私見創見」へ寄稿しているほか、(株)共同通信社の週報『Kyodo Weekly』[No.31/2014年8月4日(月)発行]の地域づくり活動紹介コーナー「地・宝・人便り」に「新渡戸稲造の志の原点・十和田から一公に尽くす「志」をつないで」と題してKyosokyodo(共創郷土)の取り組みを紹介しました。

【デーリー東北「私見創見」】(掲載日とタイトル)

- 6月24日(火)シルクロードの遺宝/文化融合が示す共存の道
- 7月29日(火)からゆきさん考/日星関係発展の陰に
- 9月2日(火)長寿県・長野に学ぶ/官医民 バランスよく活動

◆全国で地域再生に取り組む方々と「地宝人ネット」等での意見交換も行っていきます。地宝人ネットアドレスwww.47news.jp/chiikisaisei/

▶十和田市内の中学校2校が職場体験を当館で実施

7月1~4日(火~金)十和田市立三本木中学校3年2組立崎潤くんと、3年3組繁在家悠佳さんが、7月2~3日(火~水)には十和田市立第一中学校3年上坂真紀子さんと志田琢真くんが、当館で職場体験を行いました。来館者への対応や資料の整理、境内の清掃管理などを体験しました。美術部に所属する立崎くんは稲造のイラストの作画にも取り組みました。



立崎くんが作画した新渡戸稲造イラスト

▶十和田市秋まつり初日9月5日(金)11:00~稲生町中央町内会・わ組が太素塚で御神輿出陣式を行い「十和田祭唄」(地固め唄)を太素塚に奉納して安全を祈願しました。



活動報告

▶館長の講師活動

- 6月11日(水)三本木中学校2学年の総合的な学習講演会講師(演題:十和田市のまちづくりと開拓精神)
- 6月18日(水)東北電力講演会講師(演題:未来を切り拓く力)
- 8月7日(木)平成26年度三戸郡小中学校校長・教頭研修会講師(演題:開拓精神と武士道精神)
- 9月27日(土)一本木沢ビオトープ協議会「トンボ博士になろう」トンボ観察会講師

▶音楽学博士・音楽評論家として館長が活躍

7月5日(土)全日本ジュニアピアノコンクール(八戸)全日本ピアノオーディション青森地区予選会(青森)ならびに9月23日(火)東北ブロックジュニア・ピアノコンクール及びピアノ・オーディション本選会の審査員を館長が務めました。

▶平成26年度第2回太素顕彰会定期総会を開催

6月24日(火)14:00~平成26年度第2回太素顕彰会定期総会を十和田商工会館2F会議室で開催。平成25年度事業報告及び収支決算報告について審議が行われ、原案通り可決されました。

▶6月4日(水)青森県博物館等協議会理事会・総会(青森市)に館長出席

▶6月25日(水)17:30~平成25年度「太素の水」保全と活用連合協議会役員会ならびに定期総会を水土里ネット稲生川2F会議室で開催

▶7月22日(金)共同通信社「地域再生シンポジウム」(東京都)に館長出席

▶9月26日(金)11:30~新渡戸傳翁没後143年命日祭を開催

編集後記

10年ぶりに訪れた常夏の島。那覇、石垣へと飛行機で乗り継いで、更に高速フェリーで40分。西表島の太陽は間近にあり、じりじりとおよそ刺すような日差しなのだが、嬉しさのあまり、さほど痛みは感じない。そんな汗の目的は南国の昆虫採集である。険しい山道を歩くとき瞬く間に汗のようにつたわる汗が目に入る。道に深く入ってゆくと、小道の先には奥まった小さな空間があって、僅かな木漏れ日のところには深紅のハイビスカスが一輪だけひっそりと佇んでいた。お昼前から7時間歩き続け、夕刻6時半についてお目当てのイシガキヤンマが6メートルの捕虫網に入った。「思えば遠くへ来たものだ」とはまさにこのことなのだろう。本当に嬉しかった。数日西表で過ごし帰宅した翌日である、私たちの稲生川がCIDの「かんがい施設遺産」に登録されたとの吉報が入ったのは。どっと出た旅の疲れもどこかへ行ってしまった。(館長 新渡戸常憲)



■ご利用案内

- ・開館時間:午前9:00~午後4:00
- ・休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日) 年末年始(12/29~1/3)
- ・観覧料:大学生・一般210円(団体180円)
- 小・中・高校生54円(団体43円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して

十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日

2014年10月1日

編集・発行

太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax : 0176-23-4430
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷

印刷